

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：32825

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23257

研究課題名（和文）ボランティア活動者の社会的意義の扱いかたについての社会学的研究

研究課題名（英文）A sociological study of how volunteer participants deal with social significance

研究代表者

富井 久義 (Tomii, Hisayoshi)

社会情報大学院大学・先端教育研究所・准教授

研究者番号：10845647

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1950年前後生まれコーホートである東京都西多摩地域の森林ボランティア活動の初期の中核的担い手が、活動をどのように構想・実践してきたのかを、担い手のライフコースに着目しつつ明らかにした。とくに、東京都西多摩地域の初期の森林ボランティア活動の企図と評価を、担い手に内在的な視座から明らかにし、ボランティアの活動者にとって活動の社会的意義を語ることのもつ意味を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、（1）活動の中核的担い手のコーホートに着目してこれまでの活動展開の流れを明らかにすることで、時代的拘束性のみならず、担い手のコーホートの効果や成熟のプロセスがもたらした影響についての知見を森林ボランティア研究にもたらす点、（2）転換期を迎える2010年代の森林ボランティア活動の新展開の検討にあたって、これまでの森林ボランティア活動の鍵となる概念を抽出する実践的な知見をもたらす点でとくに意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies how the early core players of forest volunteer activities in the Nishitama region of Tokyo, whose cohort was born around 1950, conceived and implemented their activities, focusing on the life course of the players. In particular, we clarified the planning and evaluation of the early forest volunteer activities in the Nishitama region of Tokyo from the intrinsic perspective of the leaders, and examined the significance of discussing the social significance of the activities for the volunteers.

研究分野：環境社会学

キーワード：森林ボランティア ボランティア 社会的意義

1. 研究開始当初の背景

全国の森林ボランティア活動団体を対象とした質問紙調査「森林づくり活動についての実態調査」の結果によれば、2010年代の森林ボランティア活動は、転換期を迎えている。具体的には、中核的活動者の高齢化によって活動の継承問題が顕在化し、従来の方法を踏襲するだけでは新たな活動の担い手を動員しえないという問題意識が全国的に共有されていることが示唆されたのである。これを踏まえた実践上の喫緊の課題は、今後の森林ボランティア活動の新たな構想を打ち立てることであるが、他方で、その検討材料となるようなかたちで、これまでの森林ボランティア活動の中核的担い手の活動をめぐる構想の核がどのようなものであったのかを明らかにすることが重要性を帯びる。

とくに森林ボランティア活動においては、活動の中核的担い手がしばしば、行政や森林政策学者がとらえる活動の社会的意義とは異なるところで、活動の意味づけを語ろうとしていることがみられるのであり、そうした状況においては、社会的意義をめぐる論理構成を中核的活動者に内在的に読み解くことで、活動をめぐる構想の核を実証的に示す研究課題が意義を持つ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1950年前後生まれコーホートである東京都西多摩地域の森林ボランティア活動の初期の中核的担い手が、活動をどのように構想・実践してきたのかを、担い手のライフコースに着目しつつ明らかにすることである。これによって、東京都西多摩地域の初期の森林ボランティア活動の企図と評価を、担い手に内在的な視座から明らかにし、ボランティアの活動者にとって活動の社会的意義を語ることもつ意味を検討した。

3. 研究の方法

本研究は、東京都西多摩地域の森林ボランティア活動の中核的活動者の活動の構想と具体的な実践がどのようなものであったのかと、それを活動者自身がどのように評価しているのかを明らかにすることを目指し、中核的担い手と関係する活動者等に対する聞き取り調査と、各団体の機関紙を中心とする関連資料の収集をおこなった。

具体的な問いに据えたのは、第一に、活動者自身が、活動をめぐる社会的意味づけをどのような場面で積極的に活用し、あるいはどのような場面でそのような語りを回避しているのかである。近年の社会運動論・ボランティア論では、活動の社会的意義と活動参加の論理には二重性があり、活動者は必ずしも社会的な意味づけに共鳴して活動に参加しているわけではないことが指摘されており、この点について既存研究は、活動者の立場に内在的に活動を理解することで、この二重性の解消をはかろうとしてきたが、本研究は、活動者はこの二重性に対処する術を既に有していて、社会的意義の書き換えをはからずとも現に活動に取り組んでいるという視角をとった。

問いの第二は、森林ボランティア活動を担いえてきた時代的拘束性、加齢による効果、コーホートの効果はどのようなものであったのかである。東京都西多摩地域における森林ボランティア活動の初期の中核的担い手の多くは、1950年前後生まれコーホートが、1980-90年代に40歳前後で東京都西多摩地域での森林ボランティア活動をはじめ、近年に至るまで中核的な担い手として活動を牽引してきた。本研究はこの活動の担い手の世代に注目する分析視角をとった。

4. 研究成果

具体的な研究成果としては、第一に、みずからを全共闘世代と位置づける活動者の中核的な担い手の論理に着目した分析を挙げられる。ミクロな次元での変化や創造に重要性を置き、自己充足的なものとして活動をとらえる予示的政治志向という概念を手がかりに、活動の社会的意義を語ることをあくまで動員のためのレトリックとしてとらえ、継続的な活動へのかかわりのためには、みずから語る活動の社会的意義と身体感覚との接続が必要であるとする語りを読み解いた。なお、他の中核的活動者への聞き取りや資料の読み込みによってさらに明らかになったのは、(1)中核的活動者のあゆみは、時代状況の影響を共通して受けつつも、それぞれの関心や来歴によって多様なものであること、(2)聞き取り調査時点での関心事と過去の出来事に際して有していた関心事は異なる場合があり、それが他の活動者の聞き取り調査とそのデータの読み込みによって浮かび上がってくること、(3)活動者自身が活動をめぐる世代論を語っており、その語り方自体が分析の対象になりうることである。この点は、今後具体的な成果としてあらわすべき課題となる。

具体的な研究成果の第二は、2010年代までの森林ボランティア活動の展開を環境運動の観点からとらえた分析である。森林ボランティア活動は、当初マクロな社会変革の可能性という観点から注目を集めてその規模を拡大してきたが、近年では、活動者自身の経験というミクロな次元での変化や創造の可能性に目が向けられ、新たな展開が模索されているという流れを明らかにした。ただしこうした流れにもかかわらず、中核的活動者は、一貫してみずからの関心に即した特有の活動に取り組む意味を語ってきているのであり、ふたつの側面を統合してとらえた分析

を展開することが、今後の課題のひとつとなる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 富井久義
2. 発表標題 東京都西多摩地域の森林ボランティア活動の中核的担い手による社会的意義の語りかた
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------